

ニュース JAFIC EYE №238

11 月におけるサンマの漁況経過

1. 2021 年 11 月の漁況の経過

今年 11 月のサンマ棒受網における生鮮サンマ水揚量は 8,402.0 トンで、前年（13,941.6 トン）の 60%にとどまった（表 1）。10 月の水揚量より倍増したものの、11 月単月で 1 万トンに届かず、少なかった。前年は記録的な不漁であったが、今年は前年をさらに下回り、1971 年以降で最低の水揚量となった。生鮮サンマの平均価格は 609 円/kg で前年の 1.49 倍であった。

表 1. 11 月の生鮮サンマ水揚量と平均価格

	2020 年		2021 年		前年比	
	数量(トン)	価格(kg/円)	数量(トン)	価格(kg/円)	数量	価格
11 月	13,941.6	408	8,402.0	609	0.60	1.49

（出典：おさかなひろば）

11 月上旬の主漁場は、前年同期よりも東側の公海である落石東南東 250～280 海里（漁場水温 12～16℃）、落石東 380～510 海里（漁場水温 11～15℃）であった（図 1、2）。また、久慈東 240 海里（落石南南東 220 海里）にも一時的に漁場が形成された。1 日 1 隻当たり最高漁獲量は、落石東 380～510 海里で 56 トン、他の漁場は数トンであった。漁獲物は体重 110～140g が主体であり、10 月下旬とほぼ同じであった。

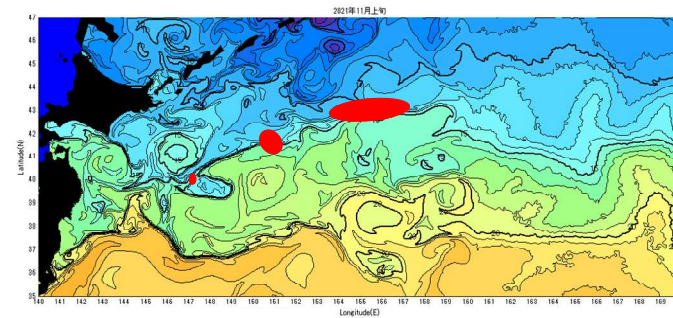


図 1. 今年 11 月上旬のサンマ漁場と海面水温分布

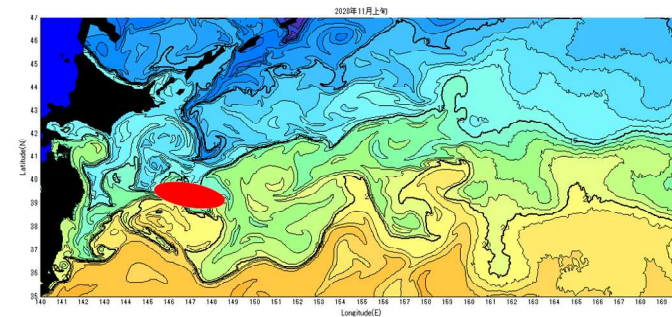


図 2. 前年 11 月上旬のサンマ漁場と海面水温分布

11 月中旬の主漁場は、前年同期よりも東側の公海である落石東 380～東北東 500 海里（漁場水温 9～14℃）であった（図 3、4）。また、落石東南東 230～260 海里（漁場水温 12～17℃）、宮古東 220～240 海里（漁場水温 12～15℃）、宮古東 180～200 海里（漁場水温 15℃）にも一時的に漁場が形成された。1 日 1 隻当たり最高漁獲量は、落石東 380～東北東 500 海里で 55 トン、落石東南東 230～260 海里で 23 トン、宮古東 220～240 海里で 24 トン、宮古東 180～200 海里で 4 トンであった。漁獲物の主体は、落石東 380～東北東 500 海里で体重 90～140g、宮古東沖で体重 130～160g であった。

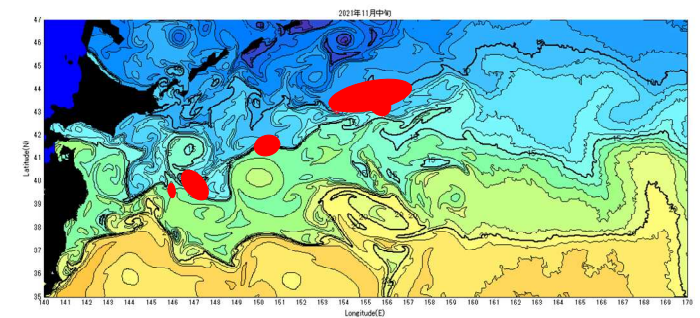


図 3. 今年 11 月中旬のサンマ漁場と海面水温分布

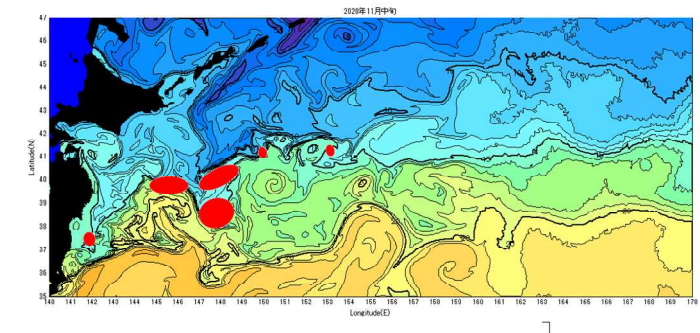


図 4. 前年 11 月中旬のサンマ漁場と海面水温分布

11 月下旬の主漁場は、前年同期よりも東側の公海である落石東南東 370～430 海里（漁場水温 12～15℃）であった（図 5、6）。また、落石東南東 330 海里（漁場水温 11～13℃）、落石南 60 海里（漁場水温 12～13℃）、釜石東 190～200 海里（漁場水温 14～15℃）にも一時的に漁場が形成された。1 日 1 隻当たり最高漁獲量は、落石東南東 370～430 海里で 36 トン、落石南 60 海里で 25 トン、他の漁場は数トンであった。漁獲物の主体は体重 80～140g であり、11 月中旬よりもやや軽くなった。

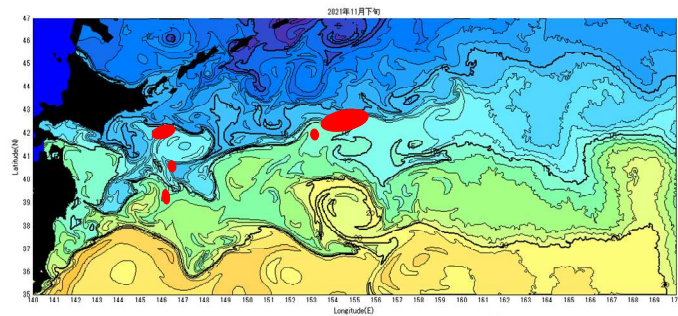


図 5. 今年 11 月下旬のサンマ漁場と海面水温分布

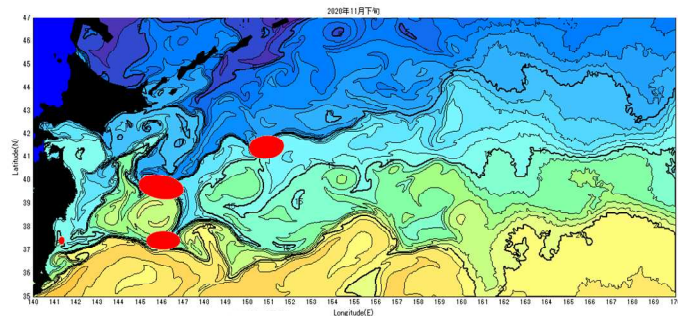


図 6. 前年 11 月下旬のサンマ漁場と海面水温分布

2. 2021 年 11 月の漁獲物

今年の 11 月中旬の漁獲物の主体は、体長 28～31cm、体重 100～150g であった（図 7）。前年の同期の漁獲物の主体は体長 26～30cm、体重 80～120g であった（図 8）。前年と比べると、今年は 0 歳魚の混じりが少なく、1 歳魚の体重は重かった。11 月下旬になり体重 80～140g 主体とな

ったものの、11 月に入ってもかなり魚体が良かったことが今年の特徴である。

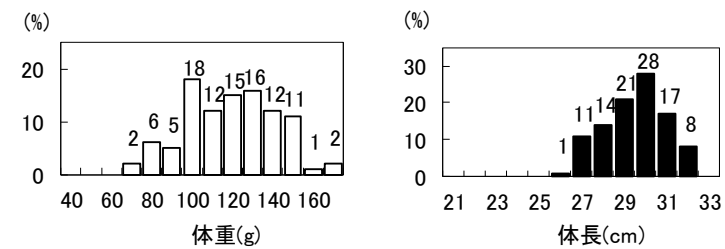


図 7. 今年 11 月中旬のサンマ体重組成(左図)と体長組成(右図)

2021 年 11 月 14 日夜操業、16 日花咲水揚

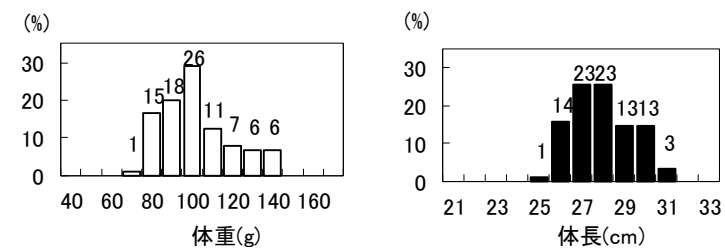


図 8. 前年 11 月中旬のサンマ体重組成(左図)と体長組成(右図)

2020 年 11 月 12 日夜操業、16 日大船渡水揚

3. 現状分析

11 月になっても引き続き漁場が非常に遠く、魚群が薄かった。このため時化の影響を受けやすく、操業日数も少なくなった。結果として 11 月のサンマ棒受網における生

鮮サンマ水揚量は前年の 60%にとどまった。

一方、魚体は 11 月としては非常に良好であった。11 月下旬になり 0 歳魚が多くなってきたものの、1 歳魚の体重は重く、生鮮として流通できるサンマであった。これらのことから、今年は魚群の南下時期が非常に遅れ、魚体組成から判断する限りは 11 月下旬になっても漁期の終わりのイメージでは無かった。

このため、12 月に入っても漁獲が続くことを期待していたが、12 月上旬に花咲東南東 260～420 海里で操業したものの漁獲量は少なく、漁獲物は 0 歳魚が主体となった。このため多くの船が切り上げた。12 月 10 日夜に残った一部の船が出漁したものの、魚群を発見できずに帰港し、今期の操業が終了した。最終水揚量は、前年を下回り、過去最低となる見込みである。

(水産情報部)